

会 議 議 事 録

					記録者	関 健太	
決 裁	教育長	教育部長	次長	課長	課長補佐	係長	グループ員
件 名	令和5年度 第1回 龍ヶ崎市文化財保護審議会						
日 時	令和6年1月15日(月) 午後2時～午後3時20分						
場 所	龍ヶ崎市役所5階 全員協議会室						
主催者	教育委員会 文化・生涯学習課						
出席者	【委員】佐藤正好委員、盛本昌広委員、今橋浩一委員、添田仁委員、山本裕子委員、松谷真一委員、佐藤美季委員 【事務局】大古教育長、国松課長、清水課長補佐、油原課長補佐、関主事、記録者						
内 容	1 開 会 2 教育長あいさつ 3 委員紹介 4 会長／副会長選出 5 会長あいさつ 6 議 事 ・議案第1号 龍ヶ崎市指定有形文化財の指定について (認定候補物件:鉄剣・短剣・ガラス小玉(長峰古墳群39号墳)) ・報告第1号 旧竹内農場赤レンガ西洋館について 7 閉 会						
事務局 (由利)	(開会)						
事務局 (教育 長)	(挨拶)						
事務局 (由利)	(委員の紹介) (事務局紹介) (会長・副会長の選出) 会長、副会長は委員の皆様の互選となっておりますが、候補者について事務局から推薦させていただいてよろしいでしょうか。						
	(各委員「異議なし」)						
事務局 (由利)	それでは会長には後藤委員を、副会長には今橋委員をと考えますが、いかがでしょうか。						

	(各委員「異議なし」) 会長に後藤委員、副会長に今橋委員を選出した。
	(出席者8名により会議の成立を宣言)
	(議事録署名人として後藤委員、今橋委員を指名) (各委員「異議なし」)
後藤	議事に入ります。 議案第1号 市指定有形文化財について、候補物件の鉄剣・短剣・ガラス小玉(長峰古墳群39号墳)について事務局から説明願います。
事務局 (由利)	資料に基づき説明
後藤	ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。
添田	ガラス小玉について二点質問します。 1点目は、古墳時代前期の古墳からガラス小玉が出たということですが、ガラスが国内で原材料から作られ始めるのはもう少し後の時代ではないかなと思います。この時代のガラスというのは、どういう経緯でここに埋められたのか知りたいです。 おそらく古墳時代前期ということになると、ガラスそのものを輸入するか、もしくは原材料だけ輸入してそれを溶かして加工するといったことがメインになるのではないかと思います。今回のガラス小玉は原材料だけ輸入されたものなのか、もしくは国内で作られたものなのか、そのあたりについてわかっていることがあったら教えて欲しいです。 2点目は、どういうふうに使われていたのかということです。 配っていただいた資料を見ますと、輪にしてありますがどのように使われていたものであると考えたらよいですか。このように復元された根拠も含めて教えていただければと思います。
事務局 (由利)	茨城県教育財団で発掘調査したものであり、報告書記載以上のことは知識として持ち合わせていないのですが、ガラスの原材料はここで取れたものではないので、朝鮮半島方面から渡来したものであると思われます。材料として入れたのか、そのものを輸入して加工したのかは、他と比べてみないと何とも言えません。 ガラス小玉の埋設状態は、輪で出てきたものではありません。あくまで写真を撮るためにつなげたものです。発掘時にはある程度固まっては出てきていますが、散逸している状態です。おそらく墳墓の服装品ということになるのかなと思います。 原始古代にお詳しい佐藤(正)委員がいらっしゃいますので、教えていただければと思います。
佐藤 (正)	ガラスについてはおそらく4世紀のものでしょう。石岡市の丸山古墳のような鏡の出土から見て、4世紀後半で県内でも古い古墳時代のものであると思います。 この時代ですと、国内ではガラス製品はほとんど製造しておりません。全部渡来品であると思います。一つ考えなければいけないのが、なぜ龍ヶ崎のこの長峰の小さな墳から出たかという点です。ここは、龍ヶ崎の中で唯一、弥生時代の大きな集落が残って存在した場所と記憶しています。となりの千葉県下総の弥生の土器がかなり入ってきています。千葉県の中で古墳とかいろんなものが確認されているのが房総風土記の丘で、古墳群が多くあります。長峰古墳も結構古墳がありました。そういうことを考えると、下総と長峰古墳がある台地はかなり人的交流があったものと思われ、そういうところからの流れであると思います。あとは何か交換できるものがあつたかということを考えなければいけません。いずれにしても関西のほうでもガラスが出てきていますが、国内ではまだまだ作っていないので、渡来品の一部だと思います。 ガラス小玉が輪で使われていたかについては、考古学では出土の現況で見るので、長峰古墳群から出土した時も多少輪の状態であったと思いますが、何点かはバラバラになってしまう部

	<p>分もあります。推測の域を出るのは難しいですが、出土例からすると繊維などを使った首輪とか腕輪であると考えられるので、1点で使うものではないと考えられます。</p>
添田	<p>ありがとうございます。佐藤委員がおっしゃったような輸入品である可能性が高いことを考えると、当時この周辺地域の流通に加えて、国際的な流通もあり、その結果たどり着いた先が龍ヶ崎であった可能性があるガラス小玉は、龍ヶ崎の歴史の重さを感じるようなものであると思います。</p>
盛本	<p>今、話が出ましたけれど、古墳時代の龍ヶ崎を含めたこの近隣の状況を古墳の数などの特徴があるのかという点も参考にしたいと思います。関東の中でも場所によって古墳の多い少ないがあり、群馬の方はものすごい数の古墳があることは有名です。長峰古墳などがある龍ヶ崎と、日立の南部や下総あたりも古墳が多くあり密接な関係がありますので、その辺の状況や指定の状況を教えていただければと思います。</p>
事務局 (由利)	<p>まず指定の状況では、龍ヶ崎市では古墳そのものを指定文化財に指定しているという例はないです。ただ、龍ヶ崎市民遺産では、古墳自体ではないですが龍ヶ崎南高校のところにある古墳と思われるダンゴ塚で行われるお祭りを指定しています。</p> <p>古墳時代の発掘の実績については、申し訳ないですが当時をよくご存知の佐藤(正)委員にご説明お願いできればと思います。</p> <p>長峰古墳群 39号墳は平成14年に県の報告書が出ていますが、平成8年にも長峰古墳群の発掘調査報告書が出されています。そのような点からも、龍ヶ崎のニュータウンの中で古墳の実例は結構あったものと認識しております。</p>
佐藤 (正)	<p>簡単に説明しますが、龍ヶ崎市内で一番古い古墳は長峰古墳です。あとは小さい円墳がある程度です。長峰を中心として、大塚など周辺にまばらに古墳がありますが大きくはないです。大きな古墳というと、県内では石岡、出島、かすみがうらにあります。物の豊富さはもちろん違いますが、舟を使って流通していて通行税のようなものを取るなど、今と同じような仕組みがありましたので水が関係しているわけです。</p> <p>茨城県内では大きな古墳は土浦から北の方に多いです。千葉県には風土記の丘のように高台の中に大きな古墳がありますが、茨城県南地区に高台で大きい古墳はないです。先ほど埼玉や群馬の話が出ました日本海からの流れなどがあるため比較はしづらいと思います。</p> <p>周辺で似た古墳というと、石岡市にある丸山1号墳も4世紀後半の古墳とされており、長峰古墳と同じようなものが出土しています。</p>
盛本	<p>現代に至るまでの景観の変化で、低湿地だった場所は開発されていって水田化していくというのは大筋の流れになるわけです。</p> <p>そこで舌状大地などと呼ばれる台地の突端部に古墳があるというのはやっぱり注目すべき点ではないかと思います。この古墳があった付近には、あとの時代に中世城郭としても使われています。直接関係ないかもしれませんが、立地として使いやすい場所ということがわかんと思います。長峰古墳自体を考える上では、そういう点も考慮していく必要があるのではないかと思います。</p>
今橋	<p>基本的に39号墳出土の副葬品に関して、すでに指定されている内行花文鏡に加えて、今回の出土品を追加するということは、私は妥当だと考えております。</p> <p>古墳時代前期の古墳がいくつかある中で、鏡、剣、玉が揃って出土しているのは石岡市の丸山1号墳と、ここだけというふうになると思います。それだけ古いということも含めて、出てきたものは非常に貴重な価値があるものにとらえられると思います。</p> <p>ただ、単に有形文化財として指定しただけでは本当にその価値があると市民が誇れるのかという問題があると思います。指定した後にX線写真をとり実測図を再作成してもらうなど、専門家による検証や科学的な分析などを加える必要があるのではないかと考えました。</p> <p>鏡も市のホームページや報告書には、写真や拓本部分と一部復元したものが掲載されていま</p>

	<p>すが、それだけで本当に市民がわかるでしょうか。鏡の専門家にきちんと見てもらい、図面を起こし、輸入されたものなのか、国内で作られたものなのか、その辺もきちんと分析してもらうということが大事ではないかと思ます。</p> <p>それからガラス小玉については、先ほど添田委員からお話がありましたが、ガラス製の玉は西日本方面ではもう弥生時代から出てきています。国内で鑄型を作ってガラスを作るようになったのは飛鳥時代からというふうに見られていて、それ以前は輸入品だということになります。すでに茨城県内のこういった小玉について、分析が幾つか出ていると思ます。そうすると輸入品であるとしても、どういうもので作られているかなど、きちんと分析にかけていくことで資料としての価値が高まって、研究者にも取り上げられ、市民もこんなに価値があるものなのかと納得できる文化財としての価値づけが私は必要ではないかと思ました。</p> <p>最後になりますが、長峰 39 号墳は最も古い古墳として位置付けられます。その次に続いてきそうなのが、長峰の古墳群の中にあつた桜山古墳だろうと思ます。桜山古墳は全長 83 メートルという規模も確認され、主体部の調査もなされています。そして金属製の武具や工具、それから蛇紋岩や流紋岩で製作された管玉も出土しています。その辺りも非常に貴重な存在ではないかと思するので、今後、龍ヶ崎市として継続して考えていく必要があると思ました。</p>
事務局 (由利)	<p>今回の鉄剣・短剣・ガラス小玉については、ある大学の研究者の方からもあくまで推論というところではありますがご意見もちょうだいしているところです。添田委員や今橋委員からいただいた意見も含め、専門家の方に取り上げていただけるような努力も必要かと思ます。</p> <p>併せて今橋委員からありました桜山古墳については、今はほとんど住宅地になってしまいました。30 年くらい前ですが、歴史民俗資料館で模型を作るなどして桜山古墳の企画展示をやったこともありました。</p> <p>指定文化財については、毎年検討を重ねて審議会にご提案させていただいています。候補物件として桜山古墳の出土物も、その中に入っておりますので、委員からのご意見も含め、今後の候補物件としての検討、研究を進めていきたいと思っています。</p>
後藤	<p>それでは今橋委員からも、市の指定文化財としてすることが適当ではないかというようなお話もございました。ご意見を踏まえた上で議案第 1 号につきましては、市指定文化財に認定することに委員の皆様ご異議ございませんか。</p>
	(各委員「異議なし」)
後藤	<p>それでは皆様からいただいた意見を事務局と相談の上で取りまとめ、教育委員会に答申したいと思ますが、ご一任いただけますでしょうか。</p>
	(各委員「異議なし」)
後藤	<p>続きまして報告に入ります。報告第1号 旧竹内農場赤レンガ西洋館について事務局から説明願います。</p>
事務局 (由利)	資料に基づき説明
後藤	ご意見・ご質問等がありましたら願います。
今橋	土地は市の方で購入するということではできないのですか。購入できれば完全に市のものとして進められると思うのですが。
事務局 (由利)	平成27年ごろに西洋館がなくなってしまうということで市民団体から市の方に話があり、調査してきた経緯があります。建物については市への寄贈の申し出があつたので市の所有となっております。土地については、その時すでに現在の所有者ものになっており、購入の検討もされまし

	<p>たが、調整がつかなかったと当時の担当者より聞いています。 西洋館については、導入路の問題などもあるため、今後の検討課題なのかなと考えています。 審議会の中のご意見ということで、承らせていただきます。</p>
佐藤 (正)	<p>建物を今後、活用していく予定とかはありますか。</p>
事務局 (由利)	<p>今は市民遺産の認定にとどまっておりますので、今後のどのように活用するかというプランは具体的にはありません。佐藤委員からのご意見は、建物の老朽化ということも踏まえてのご意見なのかなと思いますが、現時点で具体的な案はありません。</p>
佐藤 (正)	<p>八坂神社裏にある旧諸岡家住宅煉瓦門も移築され保存されています。 文化財的な建造物の保存というのは大切なことだと思います。ただ、活用をどのように考えていくかというのは大きな問題だと思いますので、今後とも、十分考えていただければと思います。</p>
事務局 (由利)	<p>旧諸岡家住宅煉瓦門及び塀は、市民団体の方たちが寄附を集めるなどして上町にある八坂神社の市の土地に移築をしています。この西洋館にも興味関心を持っている市民団体の皆さんもいらっしゃいますので、そういった方々との連携なども模索していきたいと思います。 文化財の場合は常に保存と活用ということ課題です。なかでも活用は多くの課題がありますが委員からのご意見を踏まえ、今後、どのような活用方法があるのかを継続して考えていきたいと思っています。</p>
後藤	<p>その他ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。</p>
	<p>(なし)</p>
後藤	<p>それでは以上をもちまして審議は終了といたします。 皆様本日は議事進行にご協力いただきありがとうございました。</p>
	<p>令和6年1月15日に開催された会議の内容については、上記のとおり相違ありません。</p> <p>令和 6 年 2 月 6 日</p> <p>議事録署名人 後藤 敦志</p> <p>議事録署名人 今 橋 浩 一</p>